208

画本
江戸みやげ
三編

廣重筆

金幸堂梓

江戸みやげ三編叙

凡名勝舊蹟の世に顯はれ隱るゝは口碑土地によれり
その若奈何といふべし名所古跡ハ山城大和より多かり
と遠く王城より近きが故也今大江都の繁華なる国と其名
高くある盛千ぞや伊勢物語に[illegible]
詠じられし[illegible]の幽才ときけど人皆口碑に詳しく
大江都に遠近き[illegible]殷繁華なる遠き神社佛閣

壮嚴自然ハ他力によらずて珠玉を鏤め甍を並ぶ。況や白嶺金龍山山王神田の社に於て都に
いへども悦べらしば。向かふ生写物掲出して初輯
二輯ハ既に發しぬ。今又三編刻成に及ぶ事に
序言抛よと乞かる筆の拙きを恥ずにあむ

庚戌仲冬日

逢水道人題

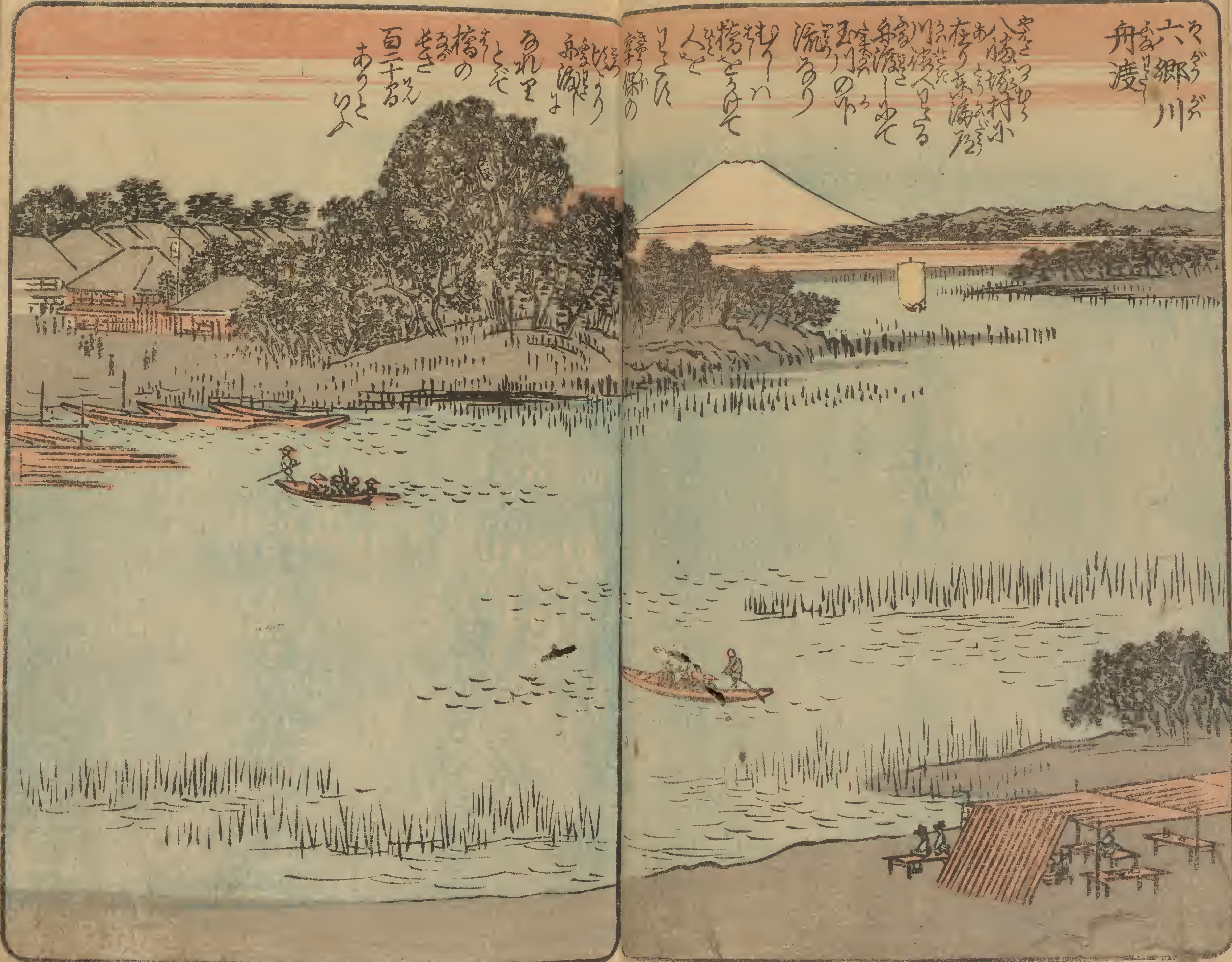
六郷八幡社地
頼朝公鞭竹

いつり幡のよゝも朽じ公の鞭

積翠庵主人

六郷川舟渡

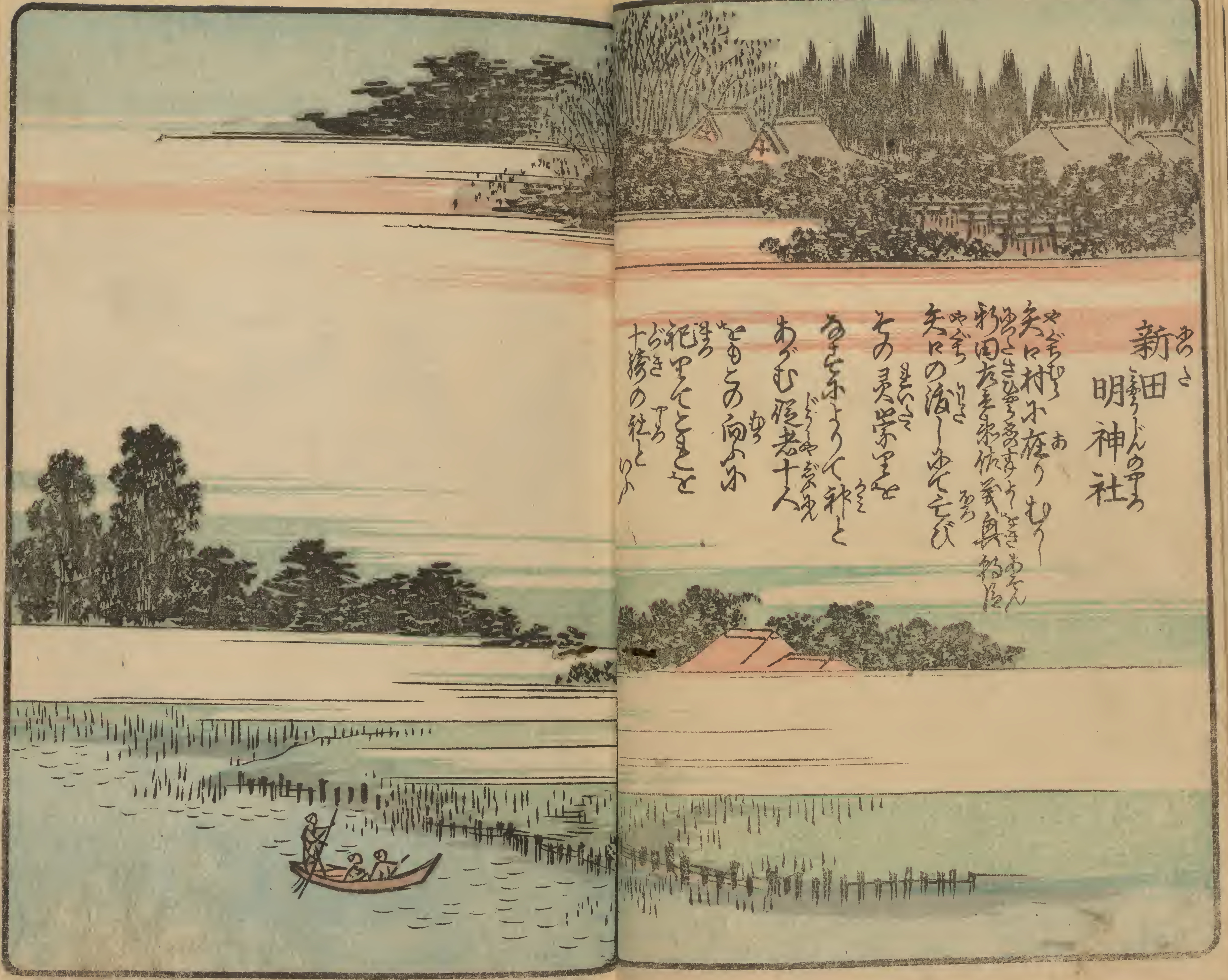
八幡塚村に在り東海道川渡入口なる舟渡しにして玉川の下流なり むかしは橋をかけて人を通しけり 慶長の頃より舟渡しとなれりとぞ 又橋の長さ百二十間ありとかや



大治年間此浦より上りの海中出現の像之厄除大師と称して正五九月廿一日参詣多し殊に三月廿一日を御影供として群集夥し金剛山平間寺といふ
大師河原平間寺

羽田辨財天社

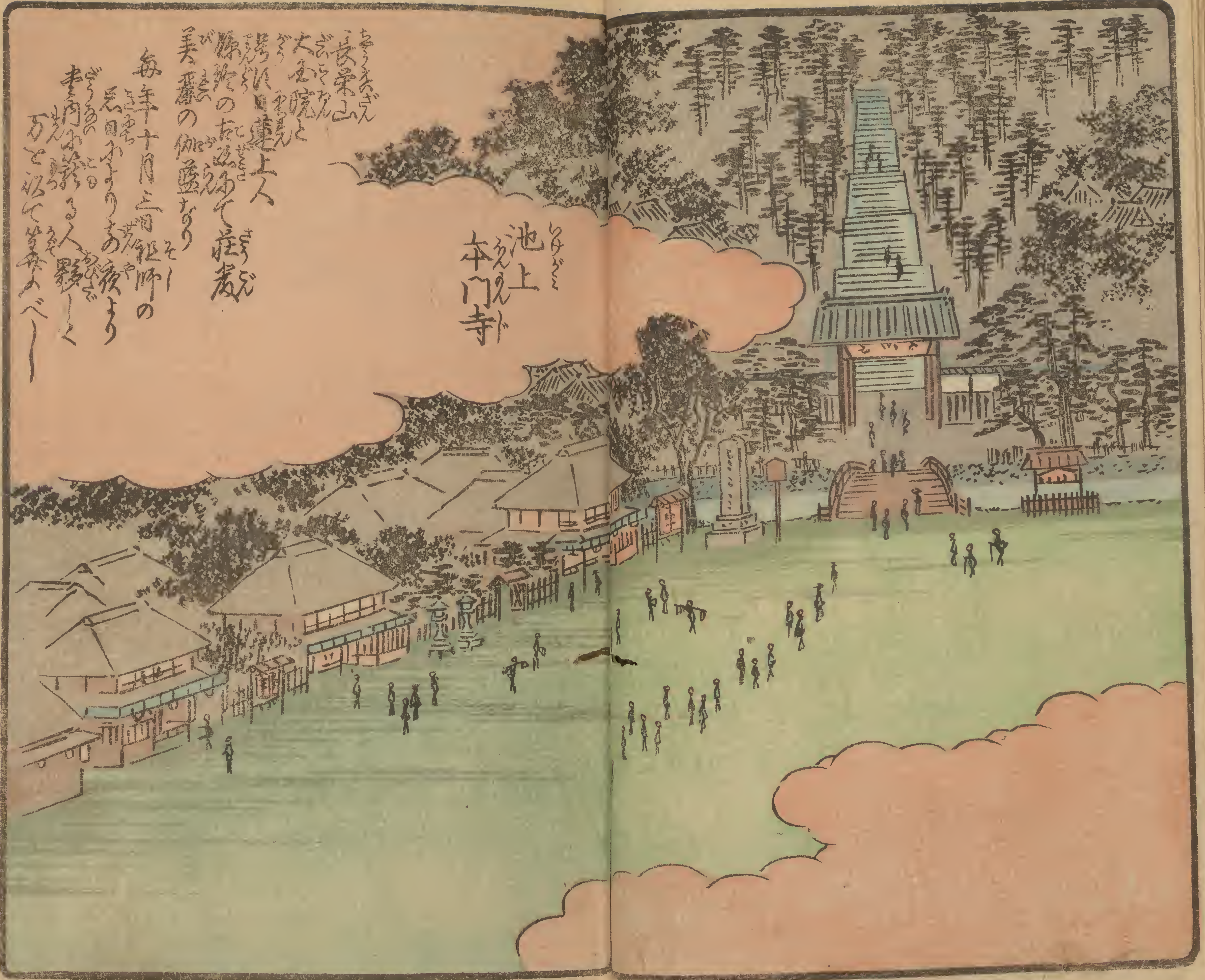
本尊を要石といふ
俗に羽田の弁天といへり
別当金生山龍王院と号す
本堂と
月岬
弘法大師の作なり
宝永八年正月
海誉上人の勧請といふ



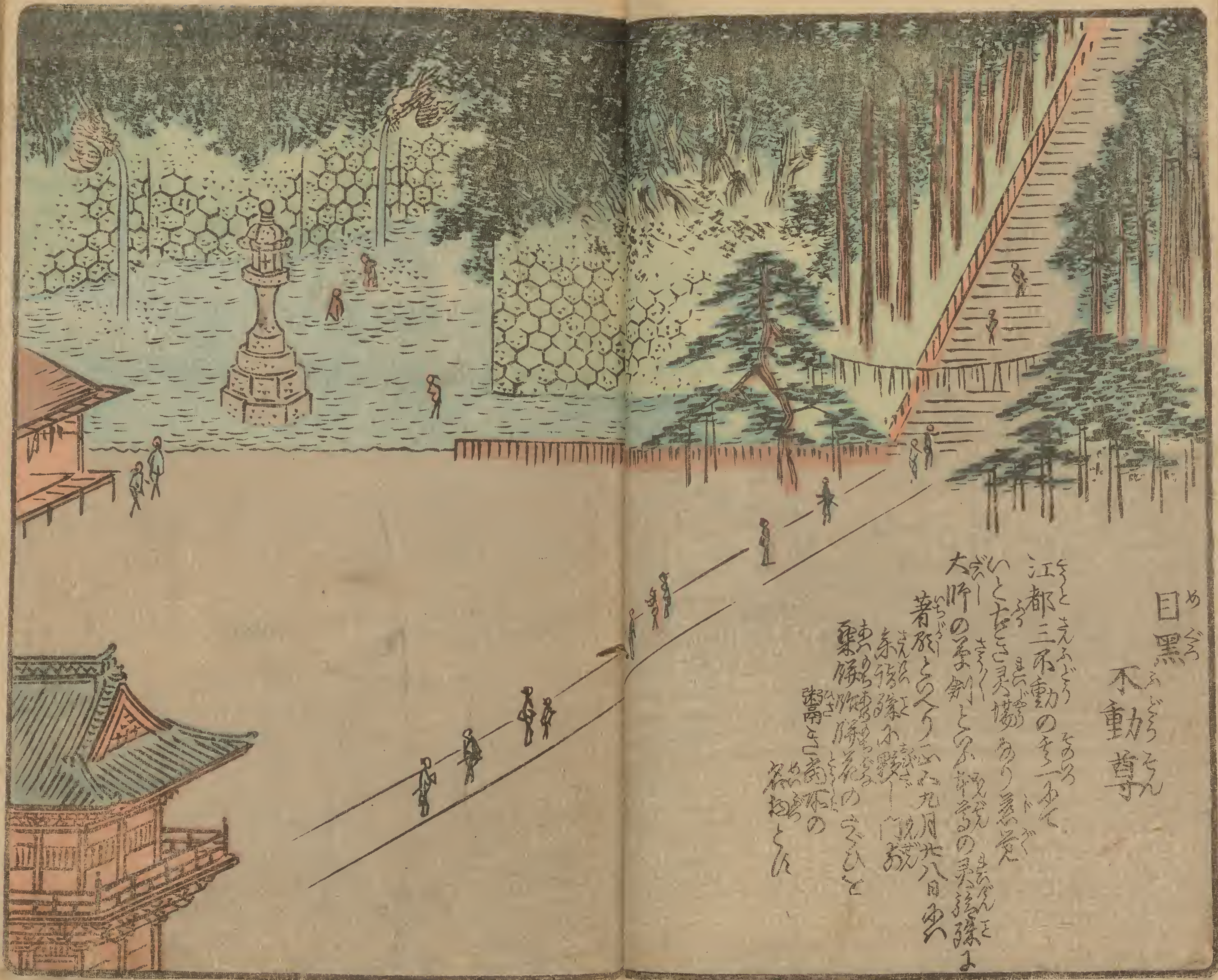
新田明神社

矢口村に在り
新田左兵衛佐義興朝臣
矢口の渡しにて亡び
その霊祟りを
なすによりて神と
あがむ従者十人
ともこの向ふに
祀りてこれを
十騎の社といふ

むかしこの池に大蛇すみて人を害せしよつて七面大明神に祀る 日蓮上人腰掛の松と云 袈裟掛の松あり 池の広さ東西三丁南北一丁あり むかしハ今の池程大なりしとぞ
千束池
袈裟掛松


池上本門寺
長栄山
大国院と
号す日蓮上人
荘厳
美麗の伽藍なり
毎年十月十三日祖師の
忌日ゆゑ前夜より
人夥しく
を以て算ふべし

八景坂
木原山にあり此辺の絶景八ツあるをもて名とせり
鎧懸松
むかし八幡太郎義家朝臣
奥州征伐のとき鎧を
かけられしとの松
覆ひつゝありしが
枝を



目黒不動尊

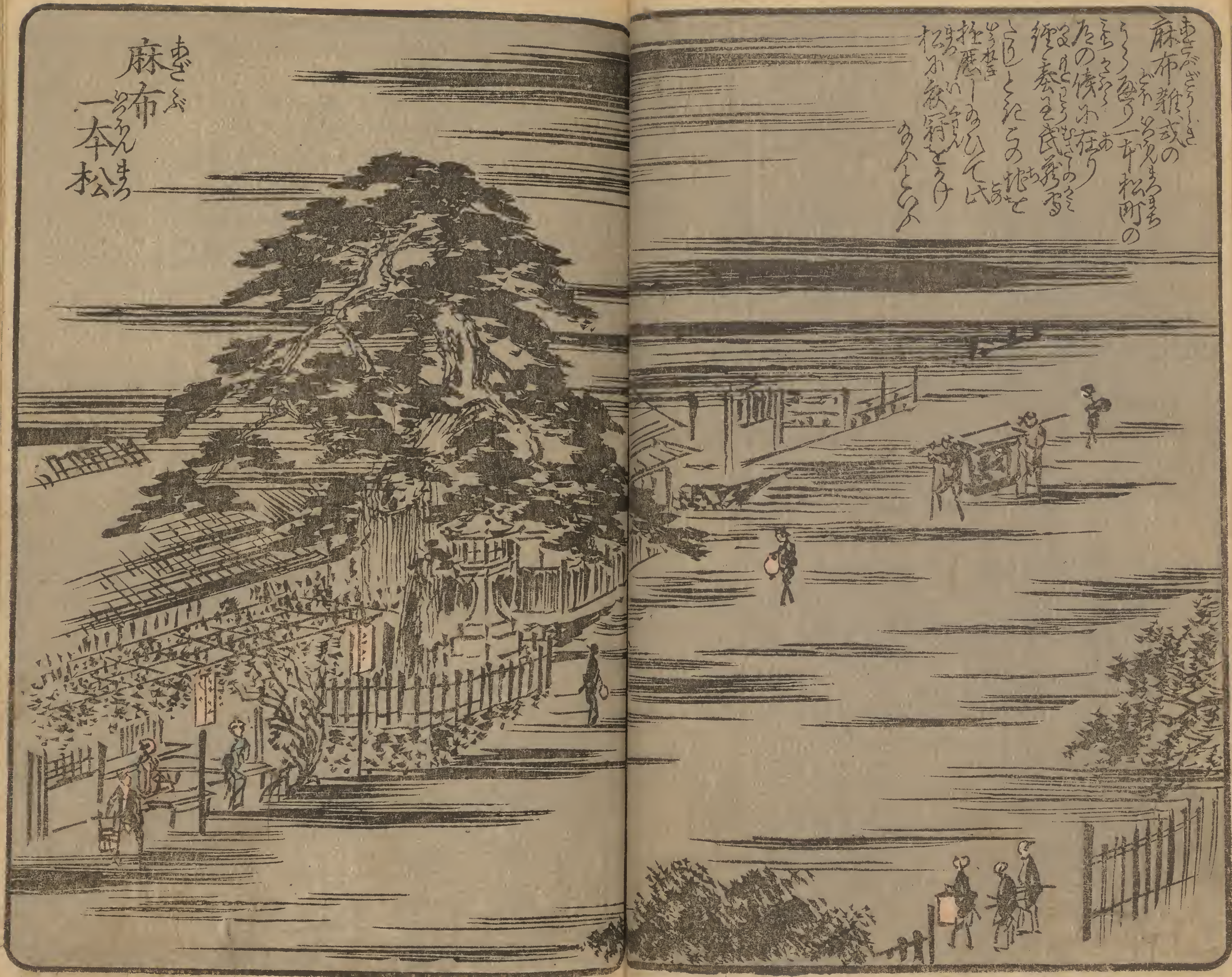
江都三不動の其一にて
いと古き霊場なり慈覚
大師の草創といふ霊尊の霊験殊よ
著しとなへり一歳九月廿八日参
詣群集不断し門前
賑ひ繁昌繁花のさひと
粟餅幾齋と云名物とん

千代ヶ崎風景

[illegible]

冨士見茶屋

麻布一本松



麻布雑式の
うちなる一本松町の
みちの傍に在り
むかし経基王武蔵守
となりてこの地を通りて
装束しあらためて此
松に衣冠をかけ
しところとぞ

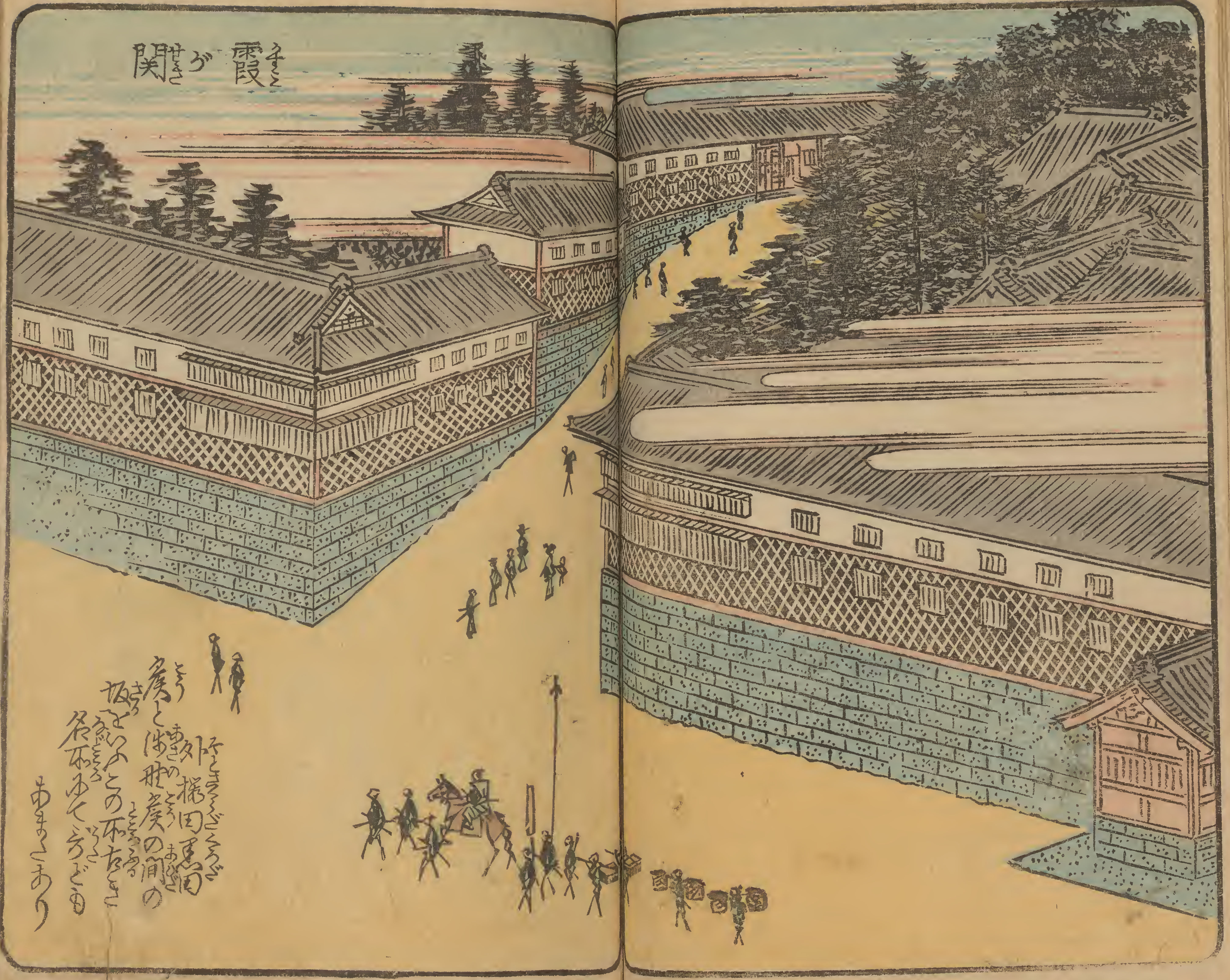
葵が岡
溜池
赤坂御門
外より
山王の
宮の
参詣人巡る
むかし
玉川神田の
両上水まで
水乾せざる
あたりの
池水さりて
上みちよせり
とぞ池中
ます蓮を多く
植て名物の
一つなり

江戸見坂（えどみざか）

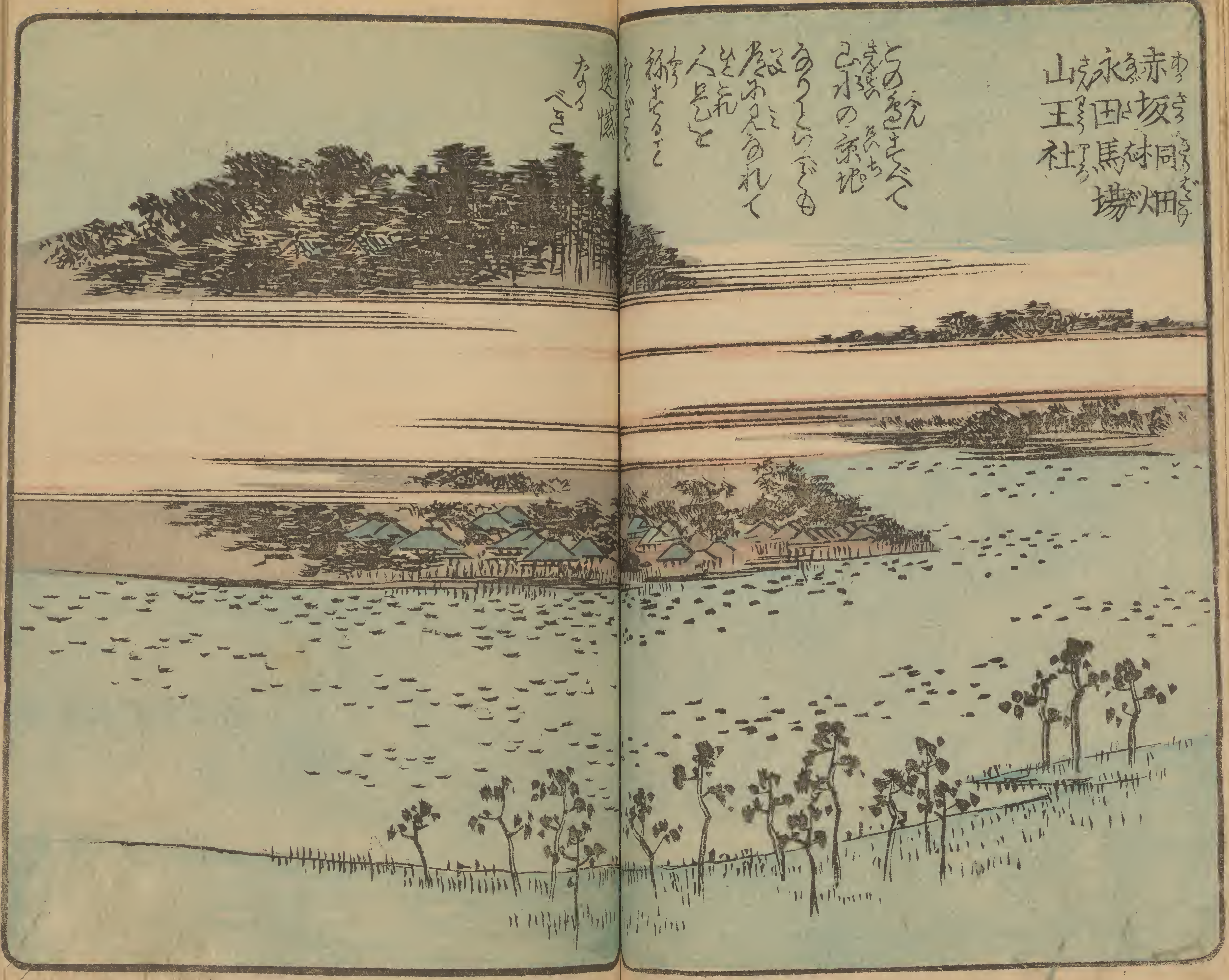
土手通（どてどほり）より溜池の方へ登る第一の坂にして人家もあれバ江戸中一眼（えどぢうひとめ）に見（み）下ろす景なるゆゑこの名ありとぞ

愛宕権現
本地勝軍地蔵尊之垂迹
本宮と同しうして
火災を除きの神と云
慶長十五年御建立の社
悉く新たに石階
六十八級画くごとく
聳て雲を凌ぐ
山上の眺望
たぐひなし

虎の門
金毘羅社
葵坂
讃州丸亀の神社を
うつし奉りて霊験
いちじるしとて遠近参詣
毎月十日参詣群集す


霞ヶ関
外桜田黒田屋と浅野屋の間の坂をいふこの所は古き名所にて哥どもあまたあり

外櫻田
辨慶堀
糀町



赤坂溜池 同田畑
永田馬場
山王社
この邊すべて遠景山水の景地なりいづれも眺望の見處あれて生え人足を留むるこそなかなかの遊覧なるべき

青山新日暮里

日蓮宗の寺院にて法華山仙寿院と号す。ひとくの庭中林泉の佳景いふべからず。

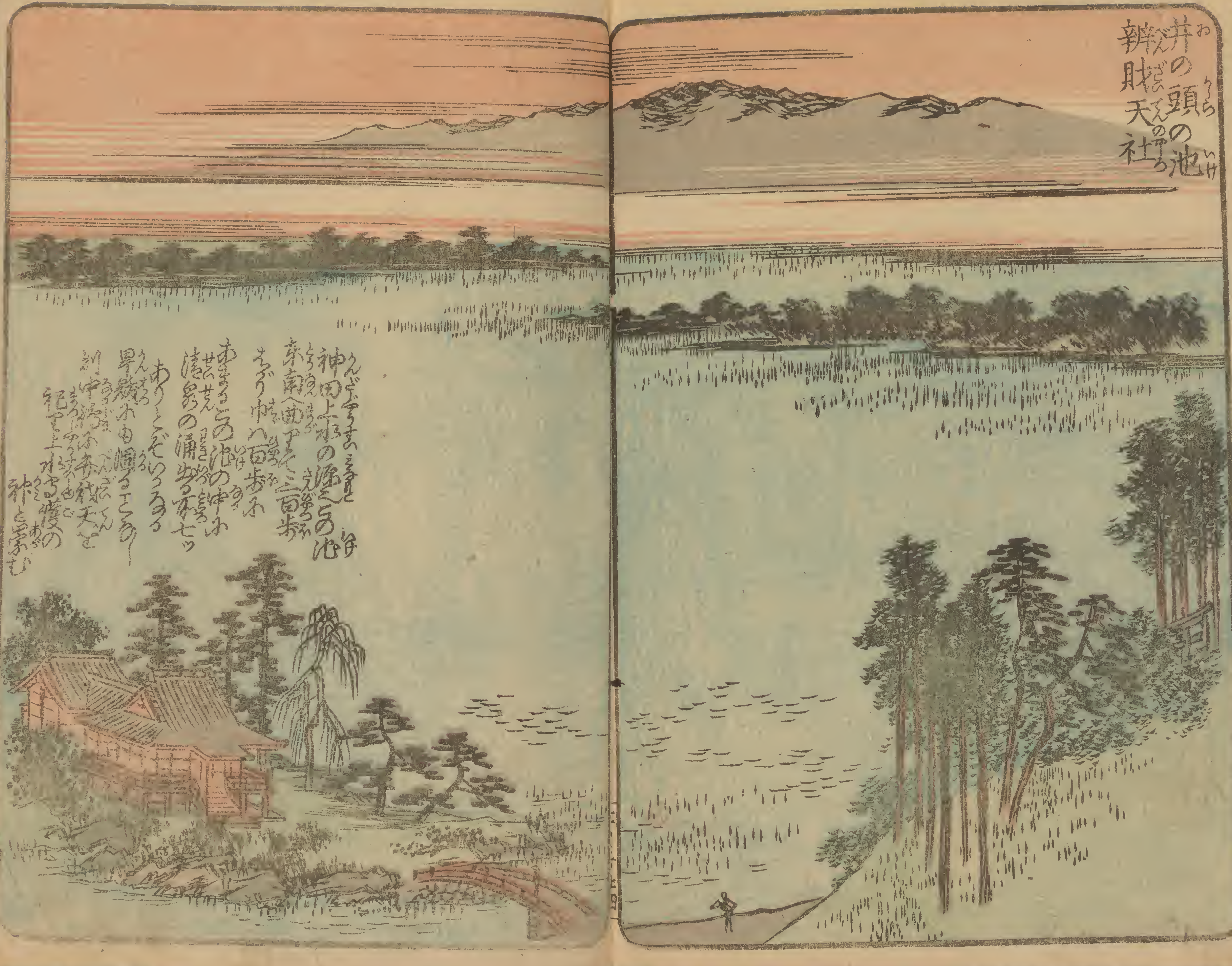
谷中日暮里に似るとて鶯号けり。春秋桜容競ひ入集まる。

青山滝岩寺庭中
笠松
寺のうち
庭中林泉殊
のさらなりの
仙寿院に
おとらず
ちやうまえの
一株の松円蓋
とるへ囲て笠松と

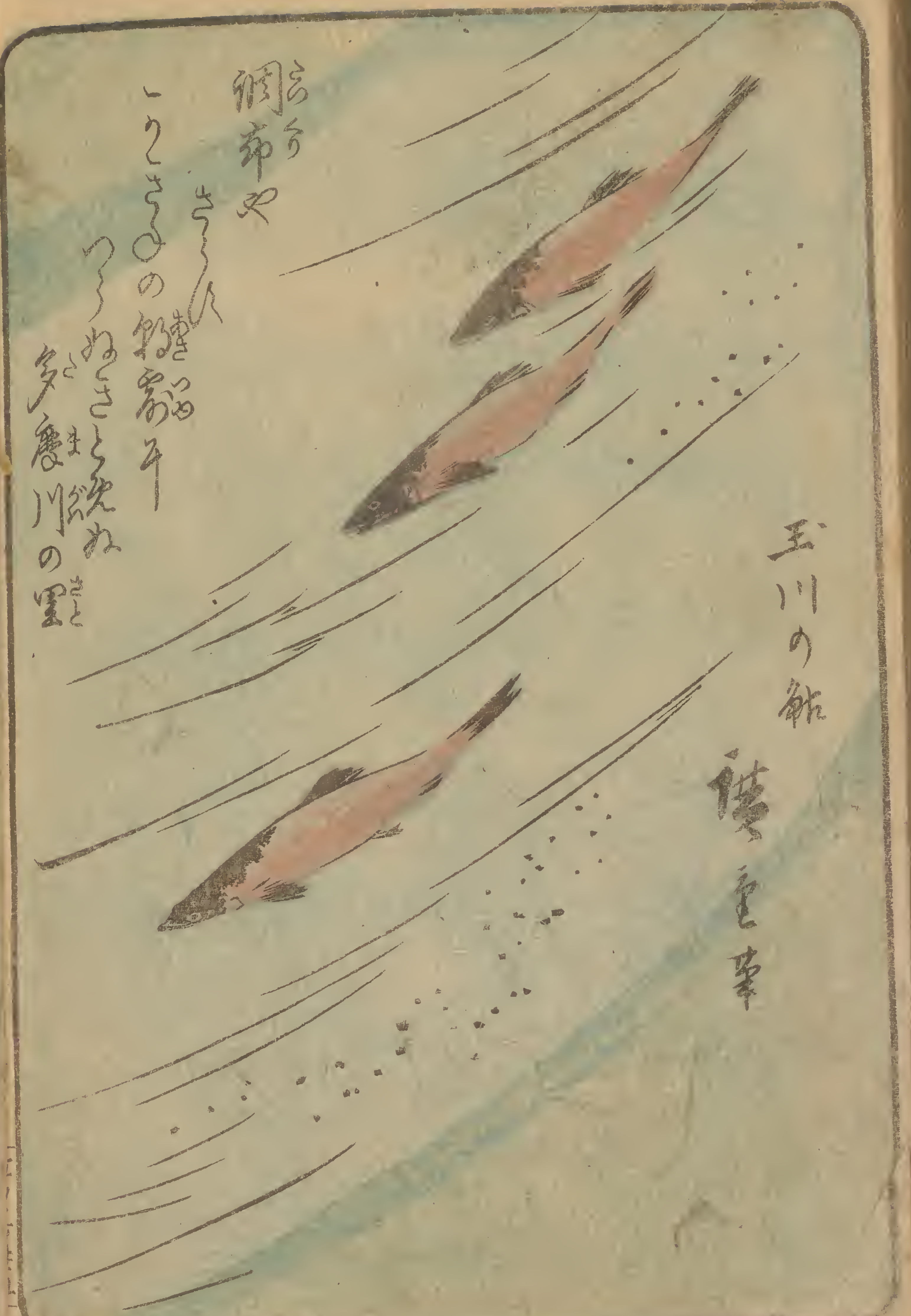
角筈熊野
十二社
権現

其二 大滝
千束との所の池より
落る小滝をまうけて夕月
納涼の一助とし都下の人こゝに
群集しこの滝を借て逆上を浴し
且蔽柱木の病を
癒さしむ

堀之内
妙法寺


井の頭の池
辨財天の社
神田上水の源なる此池
東南へ曲りて三百歩
南北へ百歩に
あまる此池の中に
清泉の涌出る所七ツ
ありとぞいへる
旱魃にも涸ることなし
池中の嶋に辨財天を
祀て上水守護の
神と崇む

京都書林
寺町通松原上ル　菊屋七郎兵衛
同　下ル　勝村治右衛門

大坂書林
心斎橋南壹丁目　敦賀屋九兵衛
同通久太郎町　河内屋喜兵衛
同　博労町　河内屋茂兵衛

東都書林
横山町壹丁目　出雲寺萬次郎
日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　通二丁目　小林新兵衛
同　山城屋佐兵衛
芝神明前　岡田屋嘉七
浅草福井町　山崎屋清七
馬喰町二丁目　菊屋幸三郎板